

# 会津農林


## かわら版



夏の只見線の様子（当所の職員が撮影しました）

### 目次

- P1----- ～高校生へ農業をPR～「フレッシュ農業講座」開催
- P2----- 令和6年度全日本学校関係緑化コンクールで2校が入賞
- P3----- 「第46回JA全会津肉用牛共進会」開催
- P4----- 小学生が新宮川ダムを見学
- P5----- ～イノシシ、猿などの農業被害対策～ 会津地方有害鳥獣被害防止  
対策担当者会議を開催  
～会津の伝統作物を広げよう～ おたねにんじん栽培研修会を開催
- P6----- 「会津ならではの花々を愛でる月間」を開催中です！  
県産花きでフラワーアレンジメント体験を実施
- P7----- 地域おこし協力隊員向けに農作物栽培研修会を開催  
福島県農林水産業振興計画に係る会津地方意見交換会を開催
- P8----- 「生きもの調査」で自然を学習～IN 湊学園（会津若松市）
- P9----- 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン【会津農林事務所編】  
～GAPの普及・拡大に向けて～ GAP研修会及びふくしま  
県GAP認証書交付式を開催
- P10～12 道の駅あいづ湯川・会津坂下 土田駅長”特別インタビュー”



## ～高校生へ農業をPR～ 「フレッシュ農業講座」開催

7月23日、会津農林高等学校1年生2学科37名の生徒に向けた、「フレッシュ農業講座」を開催しました。この講座は、会津地域の産地や施設を現地で見学し、農業への理解や関心を深めることを目的に開催しています。

生産科学科の生徒は、ブドウ（会津坂下町）、アスパラガス（喜多方市）、きゅうり（北塩原村）、酪農（猪苗代町）、水稲（会津若松市）の農事組合法人・個別経営農家を視察しました。地域創生科の生徒は、金山赤カボチャ（金山町）、養液土耕スイカ・メロン（水稲育苗ハウス）、からむしほ場とからむし引き（表皮から繊維を取り出す作業）（昭和村）、シクラメンなどの花き生産施設（会津若松市）を視察しました。

### ▲畜舎（成田牧場）視察

生徒からは「農業は大変なだけでなく、やりがいがあることを知ることができた。」「農業の未来についても考える機会になった。」など様々な感想が聞かれました。会津農林高等学校と連携して、農業を担う新規就農者確保に向け、今後も多くの高校生が職業としての農業を選んでくれるよう、取り組んでいきます。

（農業振興普及部）



▲金山赤かぼちゃの畑の視察

# 令和6年度全日本学校関係緑化コンクール で2校が入賞



令和6年度全日本学校関係緑化コンクールで、会津若松市立川南小学校が学校林等活動の部で「準特選」、同市立大戸小学校が学校環境緑化の部で「入選」に輝きました。

両校の児童の皆さんには、これからも緑化活動を通して、緑を大切にす  
る心を育ててほしいと思います。

(森林林業部)

## 川南小学校

会津若松市立川南小学校では、学校林の整備を行うだけでなく、児童たちが自ら発案し学校林を活用したきのこの栽培や腐葉土作りなど、体験的な学習に積極的に取り組んでいます。



▲会津若松市立川南小学校

## 大戸小学校

会津若松市立大戸小学校では、児童1人が1つのプランターを管理し育てた花を地域施設へ寄贈することや、保護者や地域の方々の協力のもと花壇の植え付け作業を行うなど、地域全体で大戸町の緑化活動に取り組んでおり、令和5年度に引き続いての受賞となりました。



▲会津若松市大戸小学校

# 「第46回JA全会津肉用牛共進会」開催

7月3日に喜多方市のJA会津よつば駒形肉牛集畜所で、銘柄会津牛振興協議会及びJA全農福島の共催により「第46回JA全会津肉用牛共進会」が開催されました。

この共進会は、和牛の育成管理技術の向上と牛群の改良促進を図ることを目的とし、当日は畜産農家が日頃からの飼養管理や牛の手入れなどから、発育がよく管理の行き届いた選りすぐりの牛27頭が全会津地域より出品され、出品牛は月齢や繁殖成績などの条件により4つの出品区分ごとに審査されました。



▲名誉賞(福島県知事賞)  
丸山友也氏と「まな」号

全国和牛登録協会が定めた基準による厳正な審査により、各区から優等賞が選出され、名誉賞(福島県知事賞)には3区の若人の会の部に出品した喜多方市の丸山友也さん「まな」号が見事受賞されました。

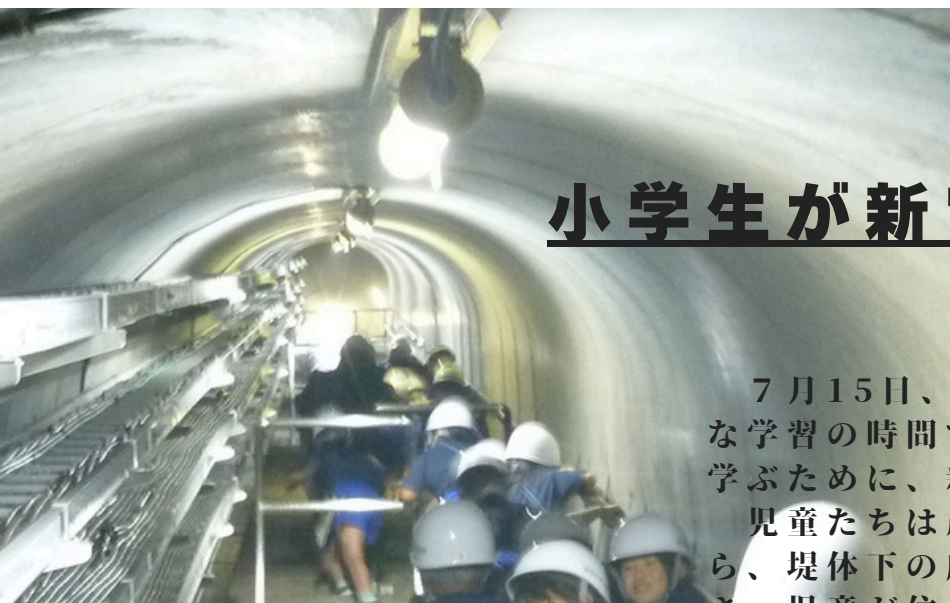
令和9年度には全国各地から選抜された優秀な和牛が集まり、能力や和牛改良の成果を競い合う「全国和牛能力共進会」が北海道で開催されます。当事務所では、今後も会津地域の肉用牛の改良の促進、関係機関・団体と連携して支援していきます。

(農業振興普及部)



▲審査の様子

# 小学生が新宮川ダムを見学



▲ 監査廊内

7月15日、新鶴小学校4年生23名が総合的な学習の時間で「ダムのはたらき・しくみ」を学ぶために、新宮川ダムを見学しました。

児童たちは農林事務所と土地改良区職員から、堤体下の広場にてダムの役割、ダムの大きさ、児童が住んでいる新鶴地域も含めた農業にどのような役割を果たしているのかの説明を聞いた後、ダム管理所がある堤体上まで実際にダムの監査廊（点検の為に堤体内部に設置された通路）の階段を元気に上りました。



▲ 水質調査中



▲ ダム概要説明中

「あの目盛り（量水板）は何だろう」

「ダムに貯めた水はどこを通るんだろう」

その後は水質調査キット（PH測定）を使い、ダム湖の水とダム監査廊内から採取した水の性質の違いを測る実験を行い、ダム湖の水が農業用水に適していることを学びました。

地域の小学生に新宮川ダムについての役割を知ってもらい、ダムや会津地方の農業に興味を持ってもらうよい機会になりました。

（農村整備部）

# イノシシ、猿などの 農業被害対策 会津地方有害鳥獣被害 防止対策担当者会議を開催

6月11日、会津地方における鳥獣被害防止対策の情報共有と市町村を越えた連携強化を行い、有害鳥獣から農作物の被害を軽減するため、「令和7年度第1回会津地方有害鳥獣被害防止対策担当者会議」を開催しました。

13市町村の担当者、農業共済組合及び会津よつば農業協同組合が出席し、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル、近年生息域が拡大しているニホンジカにおける特徴的な取組や課題を話し合い、特に電気柵のバッテリー盗難対策や目撃情報の通報時の体制などを確認しました。  
今年も、みなさまが会津地方で安心して農作物がつかれるように、関係機関・団体が連携して鳥獣被害防止対策に努めていきます。

(農業振興普及部)



▲会議の様子

## ～会津の伝統作物を広げよう～ おたねにんじん栽培研修会を開催



7月28日、本年度2回目のおたねにんじん栽培研修会を開催しました。

おたねにんじんは薬用にんじんとも呼ばれ、会津地域では江戸時代から生産が行われています。しかし、生産者の高齢化等に伴いその生産量が減少しているため、新規生産者の確保を目的に研修会を開催しています。

今回は、「土づくり」についての講義、播種前に必要な作業である「催芽処理」については実演を交えた研修会としました。

「催芽処理」は新規生産者が失敗することが多い作業であるため、失敗しないコツについて、既存生産者と新規生産者の間で活発な意見交換がなされました。

次回の研修会は10月下旬の開催で、播種作業をテーマに行う予定です。



▲「催芽処理」の実演

(農業振興普及部)

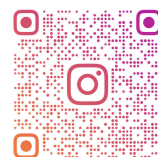
# 「会津ならではの花々を愛でる月間」 を開催中です！



▲「瀨流の宿かわち」  
の展示

(福島県河沼郡柳津町柳津下平乙  
150-1)

去年の様子は  
会津農林事務所公式SNSで！



AIZU\_NOURIN  
▲INSTAGRAM



▲X

会津地方フラワーネットワーク（事務局：会津農林事務所農業振興普及部）では、7～9月の期間を「会津ならではの花々を愛でる月間」と題し、地域の花を使用したフラワーアレンジメントを管内の各所で展示しています。

展示する花は、JA会津よつぼの6つの花き生産部会で生産された宿根かすみそう、トルコギキョウ、カラー、キクなど地域での生産が盛んな品目です。

会津の多様な花々をあしらった鮮やかなアレンジメントに触れ、心癒やされるひとときをお過ごしください。

(農業振興普及部)

## 県産花きでフラワーアレンジメント体験を実施

7月15日(火)、喜多方市立第一小学校の6年生76名を対象に、県産花きの認知度向上を目的とした花育活動を実施しました。

当所より県内で生産されている花きを紹介した後、有限会社みつい生花店の密井康一氏と密井恵美氏を講師に、県産のトルコギキョウ、HBスターチス等を使用したフラワーアレンジメントを体験しました。

「楽しかった」「またやりたい」  
「喜多方市で花が作られている  
ことを初めて知った」

引き続き小学校への花育活動を通して、県産花きの認知度向上に向けて普及推進していきます。

(喜多方農業普及所)



▲お手本を見せる密井康一氏



## 地域おこし協力隊員向けに 農作物栽培研修会を開催

7月16日、農業総合センター会津地域研究所研修室において、会津坂下農業普及所管内の地域おこし協力隊員を対象に、農作物の基礎知識修得のための研修会を開催し、11名が参加しました。地域おこし協力隊員を対象とした農作物の研修会は初めての試みです。

研修会では、管内の基幹作物である水稲、きゅうり、カスミソウ、もも等11品目の栽培概要や経営指標等について、当所の専門担当から説明を行いました。

参加者からは、「就農する際の品目選定に役立つ情報が得られた。」「他町村の地域おこし協力隊の活動内容を知ることができてよかった。」等の意見が寄せられ、今後の活動への気付きや参加者同士の交流の場ともなりました。

引き続き、関係機関と連携しながら、就農を希望する地域おこし協力隊員に対して、就農支援を実施していきます。

(会津坂下農業普及所)

## 福島県農林水産業振興計画に係る 会津地方意見交換会を開催

8月1日、会津若松市コミュニティ施設ピカリンホールにおいて、「令和7年度福島県農林水産業振興計画に係る会津地方意見交換会」を開催しました。

現行の「福島県農林水産業振興計画」を農林業に携わる方々に周知するとともに、令和6年度の会津農林事務所の取組及び実績を説明し、振興計画の推進上の課題や今後の対応に活かすため、実施しました。

参加者からは「新規就農者を増やすためには（新規）就農者だけでなく、就農を受け入れる側、長年農業に従事されている方への指導も必要と感じる。」

「1人でも多く林業従事者を確保していただきたい。」等の意見が出され、会津地域の課題等を把握する機会となりました。

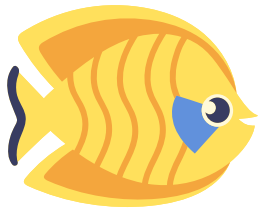
頂いた意見は、今後の県の取組の参考とさせていただきます。

(企画部)



▲大堀 美美氏

令和3年度に福島県指導農業上に認定され、令和6年度から県指導農業上会の理事を務めています。



# 「生きもの調査」で自然を学習 ～IN 湊学園（会津若松市）



▲講師から採取の方法を伝授



▲採った生きものを観察する児童たち

6月17日、会津若松市立湊学園で「生きもの調査」を実施し、児童16名が参加しました。この調査は地域の未来を担う子どもたちが農村地域や自然環境、生命の大切さを学ぶことを目的とした「ふくしまの農育」推進事業の一つです。

当日はアクアマリンふくしまから春本講師と齋藤講師を招き、生きものの採取方法や名前、分類について解説を受け、実践形式で学びました。

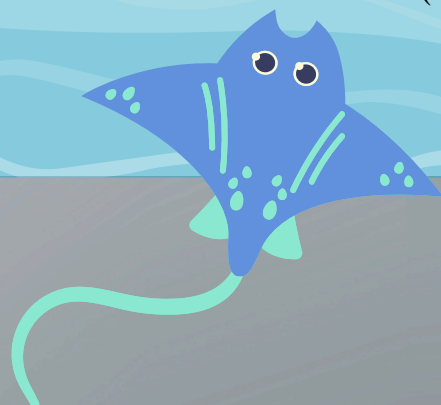
児童たちは生きものの採取方法を講師から学んだ後、学園近くの守屋神社周辺の水路で調査を行い、アカハライモリやヤマアカガエル、ドジョウ、トウヨシノボリ、コオイムシ、ヤゴ（トンボの幼虫）などを見つけました。児童たちは次々と生きものを発見し、豊かな自然を存分に楽しんでいる様子が見られました。

生きものを採取した後は、講師から生きものの分類や名前の解説を受け、児童たちは熱心に質問しながら興味を深めていました。

調査に参加した児童からは、「今まで知らなかった生きものを知ることができて嬉しかった。」「たくさんの生きものを捕まえて楽しかった。」などの感想が寄せられ、原地区の自然の貴重さや大切さを実感してもらうことができました。

今後も引き続き、子どもたちの農育を支援していきます。

（農村整備部）



# 「おいしい ふくしま いただきます！」 キャンペーン【会津農林事務所編】



7月19日（土）、道の駅からむし織の里しょうわにおいて、第1回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

今回は、県産農林水産物の魅力を広く知っていただくため、アンケートにご協力いただいた先着100名様にGAP認証を受けた会津産アスパラガスをプレゼントしました。会場では、GAPについてのパネル展示やチラシの配布を行い、県産農林水産物の美味しさ・安心・安全をPRしました。

今後は、9月27日（土）イオンいわき店、10月4日（土）・10月5日（日）イオン山形南店で開催する予定です。どんなプレゼントがあるかはお楽しみです。



▲キャンペーンの様子

（企画部）

福、笑い

## ～GAPの普及・拡大に向けて～ ふくしま県GAP認証書交付式 及びGAP研修会を開催

7月29日に、会津若松合同庁舎でふくしま県GAP（FGAP）の認証書交付式を行いました。今回、新たに認証を受けたむとう農園（会津坂下町）は、特別栽培にも取り組んでいる水稲農家で、環境にやさしい農業を目指すとともに、乾田直播や無代かき等の省力的な栽培方法にも取り組んでいます。GAPは、生産管理や資材等の在庫管理に役立つと感じているとのことです。

安全安心な農産物生産の模範として、今後益々活躍されますことを期待しています。



▲認証書交付された武藤氏  
（左から武藤健一氏、遠藤所長）

7月9日にピカリンホールでGAP研修会を開催し、新規取得志向の農業者10名が参加しました。県GAP推進員を講師に、初めてGAPに取り組みたい農業者向けの講義を行い、申請書類の一部を実際に記載する演習や「福、笑い」についての情報提供を併せて行いました。



▲研修会の様子

（農業振興普及部）



# 道の駅あいづ 湯川・会津坂下 土田 駅長

## ”特別インタビュー”

神奈川県横浜市出身  
2020年12月に会津坂下町地域おこし協力隊に就任。その後、道の駅あいづ湯川・会津坂下農産物マーケットに派遣され、農産物の安全性及び品質向上や生産者との関係強化等に取り組む。2023年2月に株式会社湯川会津坂下（道の駅あいづ運営会社）に入社。



**農林事務所（以下「農林」）**  
：今日は「道の駅あいづ湯川・会津坂下」（以下「道の駅あいづ」）の魅力をお話しいたします。道の駅あいづさんに来ると、いろいろなところが見て飽きないのですが、特に「農産物マーケット」の品揃えが楽しいですね。

**土田 駅長（以下「駅長」）**  
：湯川村と会津坂下町の農家さんや6次化事業者さんの農産物・製品を揃えています。会津地方の他の市町村産の商品も扱っています。

**農林**：マーケットの入り口にブルーベリーが並んでいます。ポットに多くの品種の解説が書いてありますね。ブルーベリーにこんな品種があるって初めて知りました。

**駅長**：お客様からの質問も多いので、一覧表をポップにしました。



▲湯川村コシヒカリを使った純米酒「瑠璃光」

**農林**：商品それぞれの説明が多いですよ。生でも食べられる「とうもろこし」とか。品揃えも素晴らしいですが、それが見ていて飽きない理由ですかね。

**駅長**：お知らせに統一感を出すことを大切にしております。ポップが得意な一人のスタッフに任せています。

**農林**：他にも特徴的な取組があると思うのですが、教えてください。

**駅長**：今年から6次化担当のスタッフを配置しました。作物の生産から加工・販売までを個々の農家さんが全て担うのは負担が大きいです。道の駅はお客さんの反応を直接聞けるし、どのような商品が欲しいかというニーズも聞けるので、それを6次化にフィードバックできれば良いと思います。手始めに、道の駅オリジナルお弁当の開発を進めているところです。

既存の6次化商品も、お客様の反応を取り入れてパッケージの改良を提案するなど、売れるようにする取組ができると思っています。

**農林：**農家レストラン「くうべえる」、地物の野菜もそうですが、「常磐もの」の海産物を取り入れていきますね。会津地方では珍しいと思います。

**駅長：**同じ県内なので応援の意味もあるのですが、浜通りの水産業者さんと直接取引できるようになり、新鮮な食材が安定的に確保できると考えています。



▲人気の馬刺し  
すぐに売れてしまうので  
販売棚もかなり広いです。



▲珍しい種類の白なす



**駅長：**農産物の持ち込みをしたという方が大変多く、心苦しいですが、一部はお断りしている状況です。しかし、モノによっては入荷が減っているものもあります。気象の影響もあると思います。一方で農家の方々の高齢化もあり、将来的にマーケットで扱えなくなるものが出てくるといった危惧もあります。道の駅を開所したところからの構想ですが、高齢化に備えて、道の駅が農家さんを訪問して集荷すだ実現できていません。

**農林：**農産物マーケットの方ですが、近年の酷暑等の気候変動で、品揃えなどの影響はあるでしょうか。



▼会津伝統野菜  
の余時きゅうり



農林：素晴らしい構想ですね。6次化への支援の取組といい、道の駅あいづが地域のプラットホームになっっていますね。

駅長：うちは周辺に大きな観光施設があるわけではないのですが、今では年間百万人を超えるお客様にご来場いただいています。お客様からは「ここに来ると、なんとなくほっとする」という感想も多くいただいています。スタッフ全員が力を合わせて取り組んできた結果だと思えますが、これからも地域の皆さんと力を合わせながら、道の駅あいづを「何度でも立ち寄りたくなる場所」にしていきたいと思っています。



▲ネギ味噌マカと赤べこをセットにして販売した  
「マカベコ?付きネギ味噌マカ」



▲豊富な種類のお味噌

進化を続ける道の駅あいづにぜひお越しください。

(企画部)

福島県農林水産部  
公式YOUTUBEチャンネル  
「1400のネタばらし」配信中



会津農林事務所SNS  
あいづ”まるごと”ネットSNS 更新中



X (HTTWITTER)



INSTAGRAM



X (HTTWITTER)



INSTAGRAM

## 【ご意見・お問合せ】

福島県会津農林事務所 企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

☎(0242)-29-5369 FAX(0242)-29-5389

